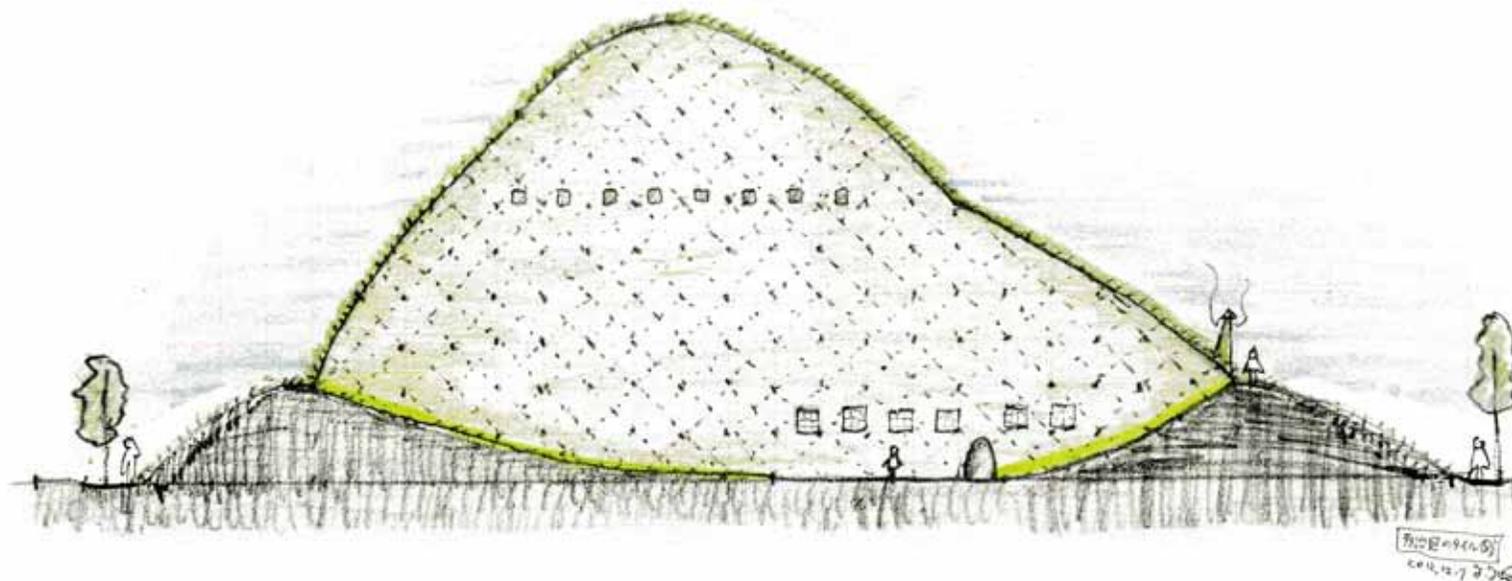


なぜか、ふしぎな、うつくしさ。

# 多治見市 モザイクタイルミュージアム

## 2016年6月 OPEN!



モザイク スタイル  
(モザイクタイルのあるスタイル)を作る  
産官協働のミュージアム

多治見市役所産業観光課



モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM  
Tajimi



世界に誇るモザイクタイルのミュージアムが  
日本最大のモザイクタイルの生産地、多治見市笠原町に誕生します。

モザイクタイルといわれる小さなタイルは、  
その色の豊かさ、形の面白さで、日本だけでなく世界中で評価され、  
人々の暮らしを豊かに彩ってきました。

色と形の限りない組み合わせは、  
見る人によって、さまざまな感動を呼びさまし、  
変幻自在な美しさを表現します。

そんな不思議で、美しい世界を体験できる、  
モザイクタイルミュージアムのオープンです。

2016.6  
OPEN!

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



モザイクタイルミュージアム

MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## 概要

多治見市は、モザイクタイル生産全国一のシェアを誇る多治見市笠原町内に、モザイクタイルのミュージアムを建設します。広い視野で語られる建築史論と、自らの視点に基づく独創的な建築作品で知られる建築家、藤森照信氏に設計を依頼。他に類を見ないユニークな建造物となることでしょう。業界関係者が主体となって収蔵してきた膨大な量のモザイクタイル資料を展示に生かし、業界ならではの技術、デザイン、商品開発の力を使って、多様なジャンルと協働しながらモザイクタイルの魅力を伝えることで、地域の産業と産業文化を世界に発信していきます。

- ◆正式名称 多治見市モザイクタイルミュージアム
- ◆開館予定 2016年6月初旬
- ◆設置場所 多治見市笠原町2082番の5(旧笠原町役場跡地)
- ◆設計者 藤森、エイ・ケイ、エース設計共同体
- ◆主な収蔵品 モザイク浪漫館所蔵品他タイル関係資料

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルミュージアムのみどころ

### ①懐かしい昭和の国産タイルと、その膨大なコレクションを生かした展示

笠原町の有志が20年近くにわたって集めてきた、モザイクタイルの製品、サンプル台紙をはじめ、道具類や貴重な建造物の壁面の断片まで、1万を超える資料が収蔵されます。地元を中心とする国内のタイルの歴史を振り返る常設展示に加え、多彩な企画展示でタイルの魅力を伝えます。

### ②世界的建築家、藤森照信の設計・デザインによる「スゴイ公共建築 (GA Japan Vol.131、2014より)」

建築史家であり、建築家としても従来の常識を超えるユニークな作品を発表し世界的に評価される藤森照信が、自分でも気に入ったという不思議なかたちのミュージアムは、建築ファンも必見。建築の完成までに参加可能なワークショップも計画しています。

### ③地元のタイル工場との連携によって実現する様々な企画と情報の集積

日本最大のモザイクタイル生産地である多治見市笠原町には、人口1万ほどの小さな町ながら、最盛期には100を超えるタイルの工場が存在しました。現在でも業界における全国トップシェアを誇っています。分業体制のもと様々な得意分野をいかして活動する工場、その各社の協力を得ることによって多様な企画を実現し、成長するミュージアムとなるでしょう。

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



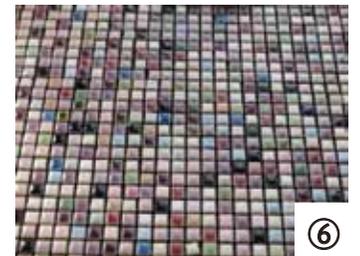
モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルとは

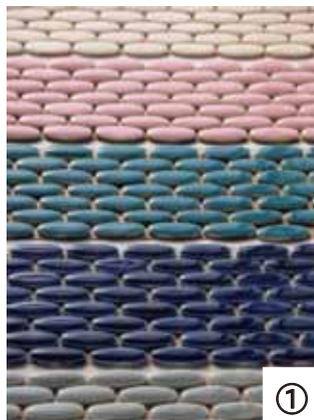
タイルとは、建築物の表面に使われる陶磁器製の薄片に対する名称として、大正11年(1922)に定められた総称です。そしてモザイクタイルとは、規定では、表面積が50cm<sup>2</sup>以下の小ぶりの製品のことを指します。多様な形を組み合わせると多様なパターンを作り出すことができる、やきもので出来た建築物の装飾、と考えれば、その可能性はまだまだ広がっていくでしょう。多治見市笠原町を中心とする美濃の地域には、原料生産に始まり、成形、焼成、そして企画・販売まで、各製造過程のスペシャリストが集う分業体制が確立され、バリエーション豊かでデザイン性の高いモザイクタイルが製造されてきました。昭和30~40年代には盛んに輸出され、国内外で使用されるモザイクタイルの多くが、この地域で生産された、と言えます。



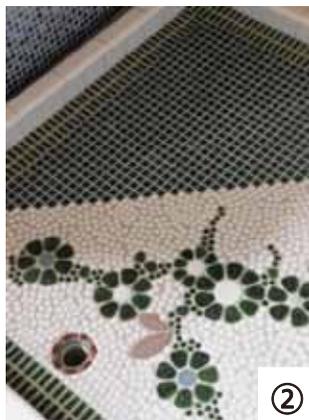
⑤



⑥



①



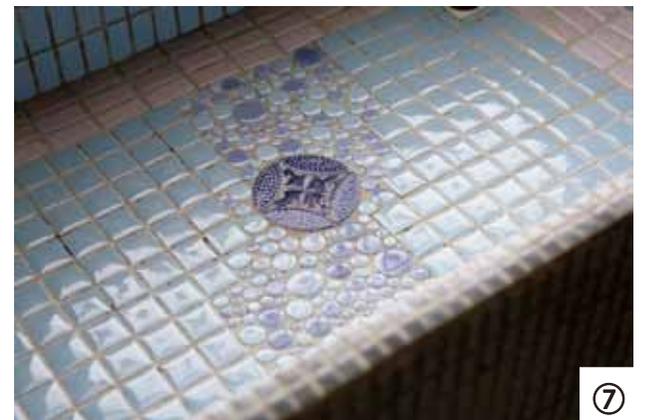
②



③



④



⑦

画像は、いずれも貸出可能です。なお、③はマジヨリカタイルと称されます。各モザイク浪漫館蔵(モザイクタイルミュージアム収蔵予定)。

## 建築家・藤森照信

1946年長野県生まれ。東京大学大学院博士課程修了。専攻は近代建築、都市計画史。東京大学名誉教授。全国各地で近代建築の調査、研究にあたっている。86年、赤瀬川原平や南伸坊らと「路上観察学会」を発足。91年<神長官守矢史料館>で建築家としてデビュー。97年には<赤瀬川原平邸(ニラ・ハウス)>で日本芸術大賞、2001年<熊本県立農業大学校学生寮>で日本建築学会賞を受賞。著書に『日本の近代建築』(岩波新書)、『建築探偵の冒険・東京編』(ちくま文庫)、『人類と建築の歴史』(ちくまプリマー新書)、『藤森照信建築』(TOTO出版)などがある。

### <略歴>

1971年 東北大学工学部建築学科卒  
1978年 東京大学大学院工学系研究科建築学先行博士課程修了  
1980年 東京大学にて工学博士の学位を取得  
1985年 東京大学生産技術研究所助教授  
1996年 東京大学国際・産学共同センター教授  
1998~2010年 東京大学生産技術研究所教授  
2010~2013年 工学院大学建築学部教授  
2010年~ 東京大学名誉教授



### <主な建築作品>

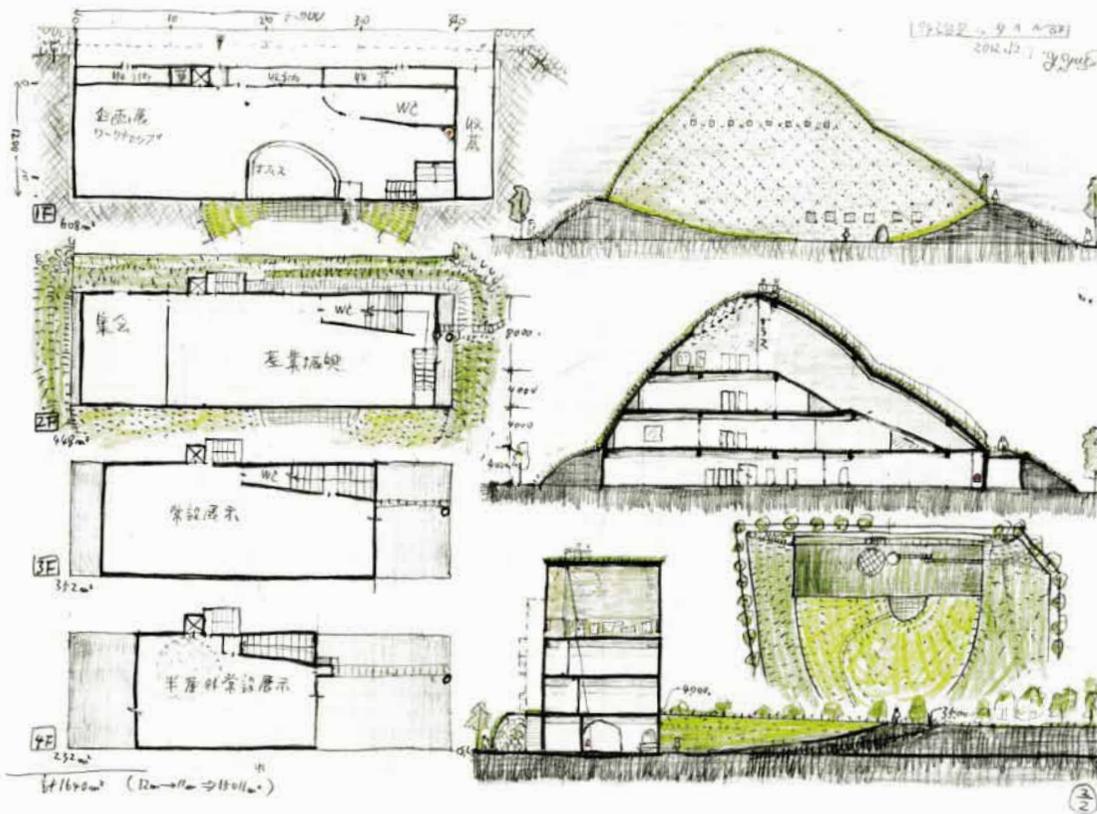
神長官守矢史料館(長野県茅野市 1991年)、タンポポハウス(東京都国分寺市 1995年)  
ニラハウス(東京都町田市 1997年)、秋野不矩美術館(静岡県浜松市 1998年)、  
ねむの木こども美術館(静岡県掛川市 2007年)

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルミュージアムの建築（藤森照信デザイン・設計）



多治見市モザイクタイルミュージアム スケッチ

©2012 Terunobu Fujimori

### 特徴

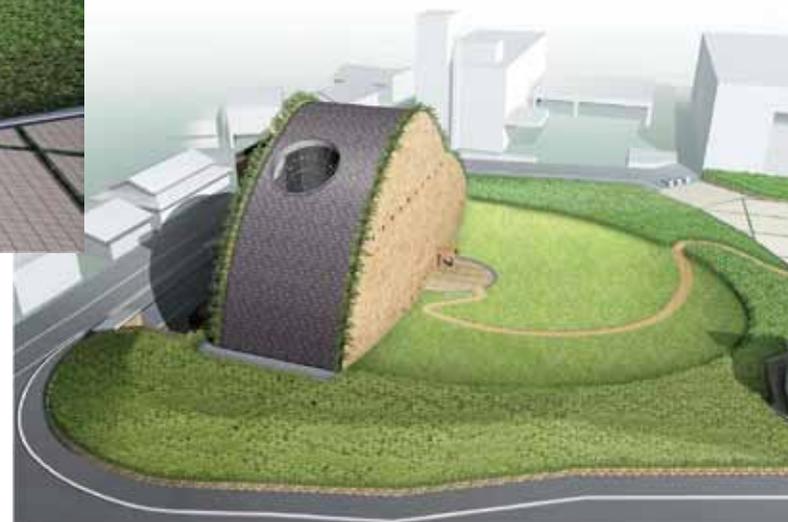
- ①多治見付近でよく目にする「採土場」からイメージされた、小山のような不思議な外観。
- ②正面には、タイルの原料となる「土」の表情が作られ、点々と埋め込まれたタイルがキラキラ輝く。
- ③2階から4階まで続く大階段は、巨大な土のトンネルか、登り窯のよう。
- ④外光が差し込む4階に広がるのは、藤森照信が選んだモザイクタイルのあふれる不思議な世界。
- ⑤緑の芝生と、笠原中央公民館につながるタイル広場が、公園のようなゆったりした空間を作る。



なぜか、ふしぎな、うつくしさ。

モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルミュージアムの建築（藤森照信デザイン・設計）



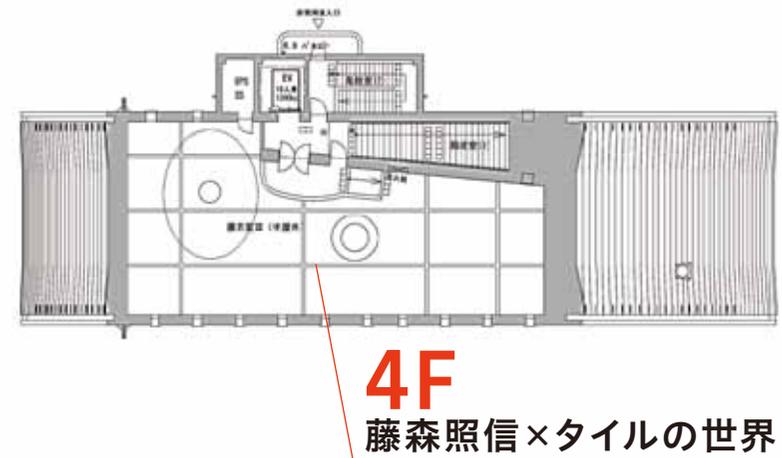
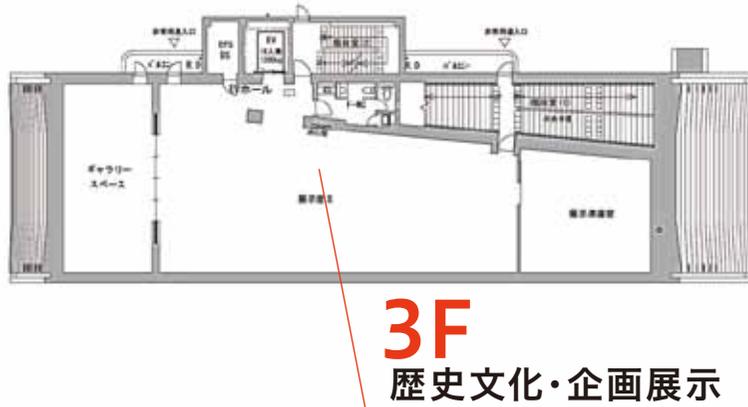
多治見市モザイクタイルミュージアム パース図 貸出可能

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルミュージアムの建築（藤森照信デザイン・設計）



## モザイクタイルミュージアムのミッション

### ①モザイクタイルの魅力を伝える。

小片を寄せ合わせ絵(図像)や模様を表すことによって、不思議な美しさ、懐かしさを作り出すモザイクタイルの魅力を伝えます。

### ②「発見」⇒「交流」⇒「発信」する。

モザイクタイルの小片を集めるように、あるいは暮らしの中にタイルを見つけるように、様々な出来事に目を向け、つなげ、豊かな未来絵図を描いていきます。

### ③地域を元気にする。

この豊かなタイルの文化を地域の誇りとして、モザイクタイルのあるスタイルを世界に発信していきます。



なぜか、ふしぎな、うつくしさ。

モザイクタイルミュージアム

MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルミュージアムの開館プレイベント(2014年度実施)

2014年 8月2日～16日 多治見市モザイクタイルミュージアム プレ展示Vol.1

「藤森照信とタイルと多治見」展

藤森照信が15年前に多治見で実施した路上観察をもとに、多治見市内でタイル目線の路上観察を写真とモザイク浪漫館所蔵品で表現。

●会場:まなびパークたじみ オープンギャラリー ●来場者:687人 ●協力:建築表層研究所テグラ

2014年 9月14日 国際陶磁器フェスティバル美濃モザイクタイルミュージアムPRブース  
タイル貼り体験コーナー 花咲け!「モザイクタイルミュージアム」!

●会場:セラミックパーMINOアルコーブ ※完成したパネルは各種イベントに利用

2014年 11月26日～11月30日 建築装飾としてのタイル・陶壁が生きる街を記録と記憶に残す  
プロジェクト写真展『タイル・陶壁が生きる街とわたしたち』

●会場:中産連ビル(名古屋市東区白壁三丁目12-13) ●主催:タイル・陶壁プロジェクト実行委員会(中心メンバー:愛知県陶磁美術館/INAXライブミュージアム/博物館明治村 ※多治見市はタイル館準備担当者として協力、2015年度正式参加)

2015年 2月7日～3月29日 多治見市モザイクタイルミュージアム プレ展示Vol.2  
「モザイクタイル 作り手、使い手」

モザイク浪漫館の資料と藤森先生のモザイクタイルミュージアム建築スケッチを展示 ●会場:多治見市美濃焼ミュージアム ギャラリーS-1及び中庭 ●来場者:872人 ●関連企画:藤森照信先生講演会「藤森先生、タイルを見る、使う」 ●来場者:120人

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルミュージアムの開館プレイベント(2015年度実施[抜粋])

### 1. 多治見市学習館・多治見市モザイクタイルミュージアム連携事業 タジミとタイル その1「まちかどタイル観察会」

多治見の市街地で目にするのできるモザイクタイルを観察しながら散策する。

また、市内のタイルのある風景写真を展示するとともに、市内にかつてあった工場を地図に示す。

観察会:5月23日(参加者・17名) 展示:5月1日~31日(来場者・約900名) 講座:「街中のタイルを探る」6月18日(参加者・約120名)

### 2. 多治見市学習館・多治見市モザイクタイルミュージアム連携事業 タジミとタイル その2「グセ・アルス展」

陶片やタイルを用いた表現活動をする美術家ユニット、「グセ・アルス」に協力をいただき、ワークショップと 展覧会を開催する。陶片に残された図柄を用いて模様を作り、絵画作品を展開する。今回は事前に多治見 市内(土岐川河川敷など)で陶片を拾い、そこからタイルに焼き付ける新作を制作、展示した。

展示会場 まなびパークたじみ 1Fオープンギャラリー 会期 2015年10月17日~11月8日(来場者・958名)

ワークショップ 1回目 10月25日、2回目 11月1日(参加者・20名)

### 3. 共同作業「藤森建築の作り方」ワークショップ

建築家、藤森照信からの提案で、一般参加を募り、モザイクタイルミュージアムの敷地付近の公衆トイレの、外壁にタイルの設置作業をした。併せて工事中の館内1階部分を見学した。

開催日 2015年11月25日

他、タイル・陶壁プロジェクトの活動を継続。

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



モザイクタイルミュージアム  
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

## モザイクタイルミュージアムの方針と展開

- ①**常設展**：美濃地域、特に多治見、笠原のタイルを巡る歴史、文化の流れ、及び製造工程を知るために必要な情報をできるだけわかりやすく展示します。
- ②**企画展**：タイルに直接かかわるテーマのみならず、多治見、笠原地域の文化、歴史に関わることや、建築に関わることなど、幅広いテーマ設定の企画展示を行います。
- ③**産業振興**：メーカー、商社、加工業者などを含むタイル業界が主催する展示室を設定し、今一番ホットな、新しいタイルの姿をお見せします。
- ④**展示以外**：出張講座や講演会、街歩き観察会、館内外におけるワークショップ活動など、多様な方法で、市民参加の機会を作ります。  
市内の関係機関と連携体制を整えることで、情報交換の機会を設けます。  
タイル産業に係る研究プロジェクトを推進し、その調査内容は、タイル産業分野の協力機関に報告し、情報共有を図ります。  
気軽に楽しめる体験型イベントによって、より広く親しみをもって、市民とタイル業界の交流ができるように心がけてまいります。



## モザイクタイルミュージアムに関する問い合わせ先

お問合せ先：

多治見市モザイクタイルミュージアム

事務局 堀江、村山

岐阜県多治見市笠原町2082番地の5

電話. 0572-43-5101 FAX. 0572-43-5114

メール info@mosaictile-museum.jp

HP <http://www.mosaictile-museum.jp> (制作中)

応援サイト <http://www.tmtm28.com>

Facebook

広報・取材にご協力をいただきますようお願い申し上げます。